

うしく里山の会 広報誌

さとやま

(No. 60 2008年2月号)

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>

平成19年度「自然観察出前講座」活動状況 (20年1月18日現在)

月	日	対象	内容	場所	参加者			会員 (講師)
					幼児	小中生	大人	
5	1	小学生	ハイケボタル保全講義	向台小		123	3	1
"	14	小学生	ハイケボタル保全田植	牛久地区		123	5	4
"	18	ふれあいサロン	地域公園樹名板付け	田宮地区			33	1
6	11	小学生	水辺の自然観察	城中地区		78	13	2
"	16	市行事参加者	城中地区の自然と歴史	城中地区		18	23	5
"	23	幼稚園児	水辺の生き物探し	城中地区	35		44	2
"	26	幼稚園児	草花と生き物探し	岡見地区	29		3	1
7	20	市障害者連合会	ハイケボタルの鑑賞	遠山地区	5	7	18	7
"	22	市民グループ	ハイケボタルの鑑賞	牛久地区			8	1
"	23	小学生と保護者	ハイケボタルの鑑賞	牛久地区		42	59	6
"	24	"	"	"		41	63	5
"	25	"	"	"		51	58	6
"	27	保育園児と保護者	夜の自然体験とハイケボタルの鑑賞	遠山地区	38		46	7
"	31	市民グループ	ハイケボタルの鑑賞	牛久地区	1		13	1
8	5	ふれあいサロン	"	遠山地区			20	1
"	5	自治会・サロン	"	牛久地区	11	30	65	5
9	15	自然保護の会	鳴く虫の観察(鑑賞)	宍塚大池	3	7	9	5
10	10	幼稚園児	秋の自然観察	牛久地区	27		4	1
"	12	小学生	稲刈り・田んぼの生き物	牛久地区		123	5	4
"	22	保育園児	秋の自然観察	牛久地区	22		2	2
11	20	幼稚園児	秋の自然観察	牛久地区	27		4	2
"	25	ホーイスカウト	秋の自然とクラフト	遠山地区	4	6	8	3
"	29	幼稚園児	秋の自然とクラフト	岡見地区	28		2	2
					230	649	507	74

「自然との出会い・感動の共有」

〈石神 良三〉

自然観察出前講座

自然観察出前講座も三年目に入り今年度の活動もほぼ終了。別表の通り二十三回の要請を受け、延べ74人のプロジェクトメンバーで対応させて頂いた。対象、内容、場所についても多岐にわたったのも特徴の一つである。

又、参加者については、幼児、小学生、大人の合計が1,386人と大幅に増加している。幼児と小学生の増加は、次世代を担う人材育成の上からも嬉しい限りである。

「手に取るなやはり野におけ蓮華草」という句がある。自然に自生する一本一草の生態には、それぞれに生きるための進化の歴史が秘められている。昆虫や鳥などの野生生物にとっても同じことである。

身近にある本物の自然にふれることをとおして、その生き方の面白さや不思議に驚き、感動させられる。そして、このような体験は、自然に対する豊かな心を育くみ、

人生をも支えてくれる。

これから、出前古座の果たす役割を再認識し、参加者の視点に立つ活動を展開していきたい。



地域公園樹名板付けの様子



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。



先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！



プロジェクト 活動報告

アヤメ園と周辺の動物たち



アヤメ事業報告

横山 さえ子

一・ヘビ

作業中に会います。Mさんがしつぽを切ってしまったもの。池に逃げ込んで、死んで浮かんだものを目にするのもなかつたので生き延びたのでしよう。水道のある近くで見たIさんは、しばらくそのあたりではドキドキしたそうです。刈り取った草の中に潜んでいて、切られたもの。卵膜に包まれた卵が三つほどありました。不定形だったものがだんだん丸くなる不思議をみました。

グウエー、グウエーと聞こえる声は何だろうと不審に思っていたKさん。深い水路の途中で丸呑みにされかけていたカエルの声でした。お節介ぞろいの私たちは、カエルを逃がしたのですが、草むらに落ちて見づかりません。しばらくすると、同じ声が見えます。ヘビはまたご馳走を見つけたのでした。全てがヤマカガシでした。子どもの頃目にするほとんどがそうでしたが、最近は見かけません。このあたりは自然度が高いのでしようか。子どもの頃、ここを遊び場に使っていたWさんが云うには、「不思議とマムシは見かけませんでした」とのこと。南向きの湿ったところという生息条件にはピタシのところですが、安心して作業しています。

二・トリ

ワサーワサーという重い音に頭を上げると、白鳥が二羽稲荷川のこちら側を、三日月橋を越し上流に向かっていてるところでした。対岸はワカサギ釣りで賑わっていて、安全だと思える草取りをしている私たちの側を選んだのでしようか。大きい鳥なので白鳥もそれ相応にハツとするほど大きいものでした。

オオタカはカラスと違いゆつたりと飛ぶ姿を目にします。ピキッ、ピキッという声を聞くこともあります。下面が薄茶色見えるものもあります。幼鳥なのでしよう。

三年前にバンがきていました。雛を二〜三羽後ろに従え、通路を横切ったり、泳いだりする様子を見かけたものです。池を睡蓮の葉がビッチリ覆ってしまったら、泳ぐところがなくなつたためか姿を見ません。睡蓮をだいぶぬいたので、今年はまだ見ることが出来るかも知れません。



ノスリの羽根

期せずして定点観測のようなアヤメ園の仕事です。これからも何か楽しめることがあるだろうと思つていきます。



巨木リサーチ事業報告 村尾 重信

植生グループに参加して

この事業は市内の巨木・古木・希少木を調査・記録して市民に情報を提供することを目的として行われている。平成十九年度の調査対象は市内の二十三の神社・仏閣に生育する樹木である。巨木等の対象木は落葉樹が二十六種(ケヤキ・エノキ・ヤマザクラ・ニガキ等)、常緑広葉樹が十一種(スダジイ・ヤブツバキ・ユズリハ・モチノキ・キツタ・シロダモ・サンゴジュ・アカガシ等)、常緑針葉樹が三種(カヤ・モミ・サワラ)であった。調査は樹高測定・幹周測定・植生調査測定・写真撮影のグループに別れて行われた。

私は植生グループに属したが、何しろ半年前に一般公募に応じ紛れ込んだ、植生に関しては無知と言ったほうが早い新参者である。したがって活動というよりは事業代表者の渡辺さんにくつついて学ぶ一方であった。植生グループは測定対象木周辺の大木等の種名・胸高直径測定と植生調査を行った。測定木周辺の木本植物は約八十種(スギ・シラカシ・コブシ・ソメイヨシノ等)、草本植物は百種以上(ヤブカンゾウ・キジムシロ・キランソウ等)が認められた。特に牛久における絶滅のおそれのある野生植物として示されている内、「絶滅危惧Ⅱ類」に評価されているサネカズラの自生が六箇所で見られた。「準絶滅危惧」に評価

されているワニグチソウとオオハナワラビが二箇所、ツクバトリカブトが一箇所認められた。そのほか樹幹に着生するヨウラクラン・ヤマタツナミソウ・リヨウメンシダ等の希少種が見られた。

牛久は社寺林であつても原生の自然植生は殆ど見られず、人間活動によって改変された二次的な植生が特徴的と言われている。その中にあつても柏田神社は境内面積も約二千五百平方メートルと広く、しかもスギ等の高木に覆われ林床の植生が比較的良く保存されている。

これに対し、牛久沼東斜面は古くから、牛久城跡は廃城(千六百年代)以降何時頃からか、人為的な土地利用がなされず、この地域の潜在植生である照葉樹林が立派に形成されているということである。年末の十二月二十二日この地域の樹木ウオッチング研修が予定されていたところ、当日早朝、得月院駐車場で、曇天・小雨・寒冷のため解散となった。そのかわり、渡辺さんよりこの地域の詳細図と照葉樹林に関する資料が配られた。私は新春早々にでも自主ウ



タイトル: キツタが絡むスギの胸高直径測定
撮影月日: 07.7.1 渡辺

オッチングして、本年度の植生と比較学習できる又な機会を得たことに喜びを感じている。

今月の巨木・希少木

No.10 ヤブツバキ

ツバキ科の常緑高木。本州・四国・九州に分布。自生種をヤブツバキと呼んでいます。牛久では、常緑樹林の中に生えており、神社・寺院の境内や旧家の屋敷には古木があります。花は、晩秋から春に咲きます。花弁はふつう5個、瓦重ね状に並んでいます。園芸品種にはいろいろな

花色、一重・八重咲があります。春に花をつけることから国字の「椿」の名になりましたが、中国では椿は別の高木です。果実は、ほぼ球形、直径2.0~2.5cmです。種子は、2~数個、ほぼ球形、黒褐色です。種子は搾ってツバキ油を採ります。葉は光沢があり、長楕円形で先が鋭くがっていて、縁には鋸歯があります。サクラヤツツジ類とともに鑑賞木として愛好されています。茶花として珍重されてきた「侘助類」があります。ツバキの仲間、冬に一重の小ぶりの花が咲きます。色は赤・白・桃色など豊富です。寒椿は冬に咲く園芸品種で、花・葉ともに小ぶりです。東北・北陸地方



撮影月日: 07.3.19 戸塚

の日本海側豪雪地には、変種のユキツバキが自生しています。(石川 満夫)





牛久自然観察の森報告

齊藤 孝

移動博物館報告

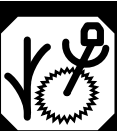
去る12月中旬、茨城県自然博物館の移動博物館事業が行われました。これは牛久市教育委員会が主催したものです。移動博物館は茨城県内にて年6回程度の頻度で実施されているとの事で、今回は牛久自然観察の森での開催となりました。

7日間の会期のうち、最初の4日間は牛久市内の小学5、6年生を対象にした授業が行われ、残りの3日間は一般公開となりました。寒さの厳しい時期の開催ではありませんでしたが、延べ千人以上の来場があり、その成果も含め、早くも本年の開催が関係機関で検討されているとの事です。

また、今回の移動博物館では、本会会員を含む二十人のボランティアスタッフが、連日、化石のレプリカ作りの指導補助や展示



解説などを行い、来場者を自然の世界へ導く案内役となりました。(下の写真は最終日のボランティアスタッフ。皆さんお疲れさまでした)



雑木林応援隊活動報告

雨宮 廣之

冬のムジナ

今の季節は、ムジナの整備に取っては、とても気が楽な季節と言えます。夏は、下草刈りに追われて、気ぜわしい活動ですが、今は、ご覧の通り、下草も無く綺麗な雑木林が現れています。

まだアズマネザサが繁茂している場所も多く、下草刈りの地区を払っていく必要がありますが、隠れていた雑木林が現れて、冬には落ち葉がつもり、それは綺麗な物です。寒い冬の朝、焚き火でお湯を沸かして、雑木林の中で飲むコーヒーは、森の炭屋前で飲むコーヒーと同じで、自分の好きな場所の一つです。



ムジナの道路沿いは、竹垣を巡らしてあります。もう少しで道路側は完成する予定です。竹垣を作っているのは理由があります。荒れた林にはゴミを捨てやす



く、我々が綺麗にしているそばからゴミが捨てられていました。そこで、竹垣を回すことにしたのですが、竹垣ですから、ゴミを捨てる事は可能です。でも、囲いがあるだけで、随分捨てられるゴミが少なくなりました。人間の心理は面白い物ですね。それに、ムジナの整備を初めてから大分立つのですが、先日、我々が整備している奥側の(その向こうには畑が有るので)アズマネザサが綺麗に刈られているのを見つけました。おかげで、昼食を食べる場所から、向こうの畑が見えるようになってきます。これは推測ですが、畑を使っている人が、だんだん綺麗になっていくムジナに刺激されて、少し、手を出したくなったのかも・・・。そんな活動の広がりだったら本当に良いですね。

最近、コジュケイの林に入っの作業が出来ていないのが、気になっていました。伐は無理でも、下草刈りだけでもやりたいのですが。



里山自然観察隊活動報告

田澤 七郎

十二月八日(土)曇り、第五回目の里山植物観察会を実施しました。今回は小野川上流の猪子地区と東大和田地区の雑木林での定点観察です。参加者は渡辺泰さん以下総勢十一名。

観察対象は植物全般ですが、今回は主として中高木の雑木でした。渡辺さんの指導に従いサンプリング調査(該当地域で最も平均的と思われる地点を10メートル平方に区切りその内側の植生の種類や数量等を詳細に調べ記録する)と中高木の樹高測定を行った。観察結果の詳細は平塚さんがまとめられた「植物観察記録」を待つとして、この観察対象の二カ所の雑木林についての所見を一言。先ず第一の猪子の林は、全くの平坦地である上に木の間引きや下草刈りなどの手入れが行き届いていて植生の状況もよく観察には最適な場所でした。一方、第二の東大和田の林の方は、ここ四、五年、全く手入れがされておらず、大変なヤブになっていてサンプリング調査も困難を極め、特に樹高測定の新兵器であるレーザー測高器の距離測定が出来ずに困りました。この林は山桜が多くて春は大変良い所なので、先が思いやられます。ところで、樹高測定について私見をもう一言。スギ、ヒノキ等は先端がはつきりしていて良いのですが、クリ、コナラ、クヌギなどの落葉樹は夏は葉が繁り先端が見えにくく、まだ冬は

細かい小枝の重なりで、やはり測定が困難でした。

以上、平成十九年度の本観察隊の所定の野外活動は一応完了しました。振り返って見ると、この夏は大変暑く、沢山汗も流しましたが、楽しい思い出いっぱいあったような気がします。平成二十年度もまた渡辺さんを中心として楽しくみんな頑張っていきたいと思えます。



寒い中でも積極的に活動中の観察隊メンバー



結束町みどりの保全区エコアップ作戦
活動報告
齊藤 孝

会全体行事として平成十九年六月よりスタートしたエコアップ作戦も、平成二十年一月末の時点で、合計7回、延べ参加者81名の活動実施となりました。(写真は当初の様子。左は現在)

当初は、牛久自然観察の森第1駐車場に隣接する杉林の倒木処理や下草刈りが活動の中心でしたが、現在はその東側に位置する雑木林の林床整備を行っています。この作業では、笹藪を移動拠点とする野鳥や哺乳類への影響を考慮し、数カ所の茂みが設定され(残され)ています。

【二月のエコアップ実施予定】

十六日(土)午前9時~11時30分

十七日(日)午後1時~3時集合場所・時間)ネ

イチャーセンター1階倉庫前・予約不要(雨天中止)

持ち物:長靴、軍手、タオル、帽子、飲み物(長袖、長ズボン)

※刈払い機やチェーンソーの使用は資格所有者に限りです。

問い合わせ先:うしく里山の会事務局(029-874-6600担当:齊藤)



－コラム－ 小正月の祈り

小正月の年中行事① 「鳥追い」

小正月とは、一月十五日を中心にした正月。元日を中心とした「大正月」に対し小正月と呼びます。暦の知識の普及前は満月の十五夜を年の境とするのが分かりやすかったため、予祝的な農耕儀礼として伝わってきました。「鳥追い」とは、茨城の県南で古くから伝承されてきた小正月の行事で、田畑の害鳥を追いかうというと言うことで一月六日に畑の一角に鳥追い小屋を建てます。この小屋の中には松の内が開けた集落に子ども達が松飾りを集めて周り、鳥追い小屋に納めます。そして小正月の十四日、正月飾りもろとも小屋を焼き払います。火勢が衰えたて来たところを見計らってシノダケ（三メートルのアズマネザサ）の先に付けた餅を火の中にかざし餅を焼くと云うものです。

この行事を「どんど焼き」とか西日本では「左義長」と呼んでいます。焼けた餅は持ち帰り、健康に1年が暮らせるようにとの願いを込めていただきます。

そして、鳥追い小屋を燃やした後、子ども達はお椀と一升枡をもって、集落を廻ります。家々の玄関先で、右手にお椀、左手に一升枡をもってうち鳴らし、「願います、叶います、福の神舞い込め、舞い込め」と大声で唱え、各家々からお小遣いをいただきます。子ども達が訪ねた家々の玄関（内側）には紅白の「ならせ餅」（枯れ枝に紅白の餅をつける。地方ごとに呼び方が異なり、まゆ玉や団子さし等々）が飾られ、小正月の雰囲気がいっぱいあふれていました。このように古くから伝承されてきた年中行事は、次々と姿を消し、ここ龍ヶ崎市でも数カ所に残されるのみとなりました。

この日、子ども達と約十軒の家々を廻りましたが、どこの家でも子ども達を優しく迎え、古き良き時代の地域の強い絆という



ものを感じさせられ、高齡化社会にまつしぐらの日本はもう一度古き良き時代に戻ってみる必要があるのではなうか。

小正月の行事② 「ならせ餅」

茨城の県南、特に牛久周辺地域には「ならせ餅」という小正月の行事が残されています。ただ、牛久市域では殆ど姿を消してしまいましたが、お隣龍ヶ崎市の農村部では今でも昔のままに正月十四日に行われています。

農家の玄関を入るとすぐ、「ならせ餅」がきれいに飾られていました。ならせ餅とは、やがて来る収穫期の作物の豊饒を予め予測して行われる模擬的な儀礼で、予祝儀礼と云われています。これは、たわわに実った作物を思い描きながら祈りを込めて飾るもので、屋内に豊饒を再現させるというものです。

龍ヶ崎地区では、椿の枝に小さくまるめた餅を刺して飾ります。椿を使用するのは、冬でも葉がついているため餅を刺すと花が咲いたように見えることから使われるようになりました。また椿の字が「春」の「木」と書くように春の喜びを伝えるものとして縁起がよいと考えるがありました。お隣の牛久では椿ではなく、コナラやクヌギの枝を利用します。この風習は「農耕儀礼」の一つとして全国の農村部で見られ、呼び方もそれぞれ異なっています。茨城の県南では「ならせ餅」（農業）、他県では「もち花」（農業）、「まゆ玉」（蚕業）、「団子さし」（農業）などと呼ばれています。

ならせ餅は正月十四日に餅をついて飾り付

けをして玄関に飾ります。そして「二十日の風に当てるな」という言い伝えがあることと、一月二十日が正月の祝い納めということからその前日の十九日には飾り付けは取り外されます。そして、一年間健康でありますようにと願いを込めて餅を焼いていただきます。

牛久自然観察の森の観察舎にも展示されていますのでご覧ください。



コラム執筆
坂 弘毅

広報誌さとやまでは、会報原稿の執筆者を募集しております。プロジェクトの活動に限らず、牛久周辺の出来事や「こんな珍しいものを見つけた。」「新しい牛久のいいところを発見した。」などございましたら、広報委員までどしどしご応募ください。多数のご応募お待ちしております！

参加者からの
お便り

このコーナーでは、活動に参加した一般の方から頂いた感想を紹介しています。

今月はそばプロジェクトから頂きました。

森田さん

そば打ちは初体験で、楽しく参加できました。作り方がわからず、たくさんの方に教わりながら何とか完成しました。普段は控えめな子供達がどんどん自分たちで進めていく姿にもうれしく思いました。太いそばになりましたが、おいしそうに食べていました。他に参加された方のおそばもいただきましたが、子供達は自分のそばを気に入ったようで、美味しさよりうれしさが勝ったようでした。去年の大晦日の日は、

子供がはりきって作ったおそばを食べて年を越しました。こういう機会を与えていただきありがとうございます。



運営委員会よりお知らせ

「うしくサイエンスフェスタ2008」が開催されます

①カツパ大交流会

(標語コンテスト表彰式、まちづくり事業報告会など)

②サイエンス・ラボ

(二十種類の科学実験・工作教室)

③サイエンスショー

(ガリレオ工房) など幼児から大人まで楽しめる企画がたくさんあります。お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

日時：二月二日(土) 十二時三十分～

十六時

場所：牛久市中央生涯学習センター

(入場無料)

お問い合わせ：牛久市教育委員会指導課

電話：029・873・2111

(内線) 3021または3022

広報委員会よりお知らせ

■次号2月号の印刷発行は一月三十日(水)です。

午後一時からネイチャーセンターで行います。お手伝いいただける方は一時までにお越しください。よろしくお願いいたします。

2月の里山カレンダー

※活動美は都合により変更になる場合がありますので、最新情報はホームページでご確認ください。

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3 ○巨木古木リサーチ(受) 9:00市役所玄関 研修見学	4 (休園日) ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	5	6 ○雑木林畑隊 13:00畑	7 ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	8 ○雑木林畑隊 13:00観察舎畑	9 ○雑木林応援隊 9:00炭小屋 ○里山自然観察隊 9:00NC (会報等原稿×切)
10 ○雑木林応援隊 9:00炭小屋	11 (建国記念日) ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P ○雑木林応援隊 9:00炭小屋	12 (休園日)	13 (休園日)	14 ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	15	16 ○エコアップ作戦 9:00NC
17 ○運営委員会9:00NC ○理事会11:00NC ○広報11:00NC ○エコアップ作戦 13:00NC	18 (休園日) ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	19	20 ○雑木林畑隊 13:00畑	21 ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	22 ○雑木林畑隊 13:00観察舎畑	23
24 ○雑木林応援隊 9:00炭小屋 ○さとやまがっきゅう 9:45観察の森P	25 (休園日) ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	26	27 ○会報発送 13:00NC	28 ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	29	

森：観察の森、NC：観察の森ネイチャーセンター P：駐車場、畑：観察の森駐車場奥の畑

コジュケイ：観察の森内コジュケイの林、観察舎畑：観察の森内観察舎前の畑、ムジナ：結束町の雑木林（通称ムジナの里）

市：牛久市役所、アヤマ園：三日月橋観光アヤマ園、(受)：受託事業、(休園日)：観察の森休園日

編集後記

みなさんは、「ハチの一滴」というお話を讀んだことがあるでしょうか？感銘を受けたお話しなので、皆さんにも紹介します。

森が火事になってしまいました。森の生き物たちはわれ先にと逃げていきます。でも、たった一羽、ハチドリだけは自分のくちばしで水を一滴運んでは燃え盛る森の上に落とししていきます。森の生き物たちは、それを見て笑います。「そんなことしていったい何になるんだ」ハチドリは答えました。「ぼくは、ぼくにできることをしているだけ」

私たちの活動も、地球的規模から見れば「ハチの一滴」かも知れません。土作り・森作りの速度よりも環境破壊の速度の方が圧倒的に速く、地球も存亡の危機に立っています。私たちも、進もうとして進めず、苦しみ悩むときもあるかも知れません。しかし、それでも毅然として初志を行っていきましよう。成功者の共通点は、「危機的な状況になっても決してあきらめない」ということです。これから新しい時代になります。新時代の幕開けの時は、なすべきことが次々にやってきて、苦しみ・悩みも伴いますが、一致協力して粘り強く対処し、艱難を乗り越えていきましよう。

(記 安村和真)